

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 想伝舎
施設名	食と森の保育園美里（令和4年4月より幼保連携型認定こども園に移行。食と森のこども園美里に名称変更）
報告者（役職）	木村 勇（副園長）
住所・連絡先	宮城県遠田郡美里町駅東2丁目17番地10号
	☎ 0229-29-9761
	E-mail shokutomori.misato@gmail.com

○タイトル（保育計画）

日々の生活に自然が寄り添う環境づくり

○主な助成備品

ロフト家具、ままごと流し台、絵本棚、工作ワゴン、玩具棚、収納棚、丸テーブル等

1. 保育計画策定の目的

令和2年に保育園として開園し、令和4年から幼保連携型認定こども園に移行しました。園の周辺には田園風景が広がり、生き物や自然物が身近にあります。

園名にもあるように「食」と「森」は未来を担う子どもたちにとって、とても重要なものと捉えています。地元の食材を生かした『食育活動』と豊かな自然と地域資源を生かした『環境教育』を生活に取り入れながら子どもたちと日々を紡いでいます。

毎日散歩に出かけ、見つけた草花を飾ったり、捕まえた虫や小動物を飼育したりしています。また、田んぼや畑で栽培した米や野菜について調べたものを掲示するなど、子どもの興味や関心に合わせ、保育室の環境を構成しています。

子どもたちの探求心が広がる一方で、掲示物や展示コーナーが増えるにつれ保育室のスペースが狭くなり、生活と遊びのスペース確保が難しいという課題があります。

そこで、保育室の空間を立体的に使える『ロフト家具』があれば、遊びのスペースが確保され、さらに『ままごと流し台』や『制作棚・絵本棚等』を置くことにより、じっくり遊べるコーナーになると期待し、計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

- ・4歳児保育室と5歳児保育室にロフト家具を設置
- ・ままごと流し台、絵本棚、工作ワゴン、玩具棚、収納棚、丸テーブル等を設置

【4歳児のロフト家具】



【5歳児のロフト家具】



- ・4歳児は登りやすいように階段を付けた。5歳児は梯子階段。
2階部分には畳を敷いて違う空間を演出。

【ままごと遊び】



【ままごと遊び】



- ・ままごと流し台があることで、ままごとのイメージを持つことができた。「冷蔵庫があるといいね」「鍋やフライパンが欲しい」などとイメージが広がり、
【お家】という場の空間づくりに目が向きました。

【お化け屋敷ごっこ】

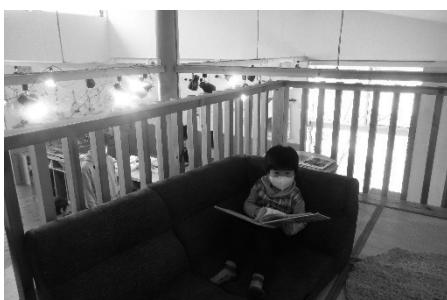
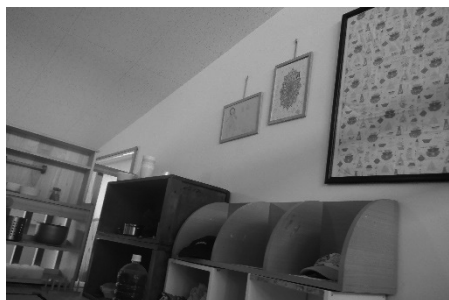


【秘密基地ごっこ】



- ・夏はお化け屋敷、秋はお店屋さん、通年秘密基地など、子どもたちの遊びによってロフトの使い方も変化していきました。

【2階の環境と遊び】

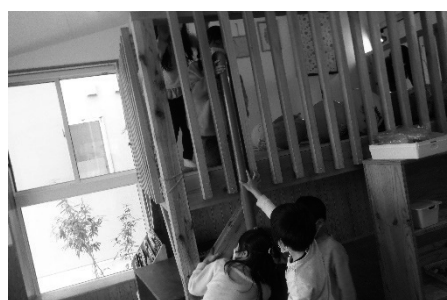


- ・ロフトの2階部分は子どもたちにとって特別な場所になりました。上からの眺めを楽しんだり、何より天井が近いことで落ち着く空間となり、じっくり集中して遊ぶ姿が見られました。

【話し合いの場】



【組み合わせ遊び】



- ・ロフト家具に布や段ボール、パイプなどを組み合わせ新たな遊具としての遊び方を見つけた子どもたち。「こうしたら面白いかも」「こんな風にしたら〇〇みたい」と様々なアイデアを出し、楽しむ姿が見られました。

【ロフトができたことで生まれた展示スペース】



- ・散歩で見つけたカニを捕まえて、調べたり、飼育するコーナー



- ・季節の作品や子どもの興味関心によって変化するコーナー



- ・ロフトや壁面にも自然物を飾って、子どもたちの日常に自然が寄り添う空間作り

3. その成果と評価

ロフト家具は空間を有効に使うだけでなく、布やパイプを組み合わせることでブランコなどの遊具に変化したり、ままごと家具の配置を変え、ダンボールで仕切りを作ることでお家になったりお化け屋敷になるなど、固定した使い方ではなく子どもの興味や関心によって変化できる余地が生まれ、子ども自身が手を加えることができる楽しさがありました。

また、アグレッシブな遊びのみならず、戸外で運動量が多い遊びの時期には、ロフト下にソファを置いてひと休みしたり、2階に絵本コーナーを置いてゆったりとした時間が過ごせたりと、アイデア次第で使い方が無限に広がりました。

ロフト家具を使う中で、2階に様々なおもちゃや椅子などを運び入れたり、2階からレゴブロックを落として遊ぶなどの姿があった際には、5歳児が中心となり遊び方について話し合い、自分たちなりのルールを決めて各クラスに伝達する姿がみられました。使っていく中で出た問題点について子どもたちが話し合い、「どうすればみんなが使いやすいか」「危険な遊び方はどうすればなくなるのか」などの答えを出し、何度も試行錯誤しながらルール作りができたことは子どもたちの成長につながりました。

4. 今後の課題と展望

ロフト家具を使い込むことで、ささくれやヒビ割れなどが見られました。そこで、年に2回ほど保護者と一緒に自然塗料を塗るなど、楽しみながらメンテナンスを行なってきました。

日常の点検を十分に行うことで思わぬケガを防ぐ事につながるため、マニュアル化していきます。

ロフトの下部分は照明が届きにくく、暗くなることがあります。その暗さが落ち着く空間の雰囲気醸し出す効果もありますが、遊びの環境によっては死角になってしまうことがあるため、職員配置や環境構成を考えていきます。

成果と評価にもあるように、ロフト家具は無限の可能性があることがわかりました。子どもの成長や興味関心によって変化できるロフトは、子どもたちにとって魅力的な場所になりました。

今後は他の学年にもロフトを設置していきたいです。

以上